

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	福祉マインドの育成を図り、手話の普及を進める。 生徒の主体的・協働的な学習活動を進めるとともに、教育の質と量の向上を図る。	授業の質と量の向上を図り、評価の信頼度を高める。	行事の実施時期等の見直しにより、授業時間を確保し、授業の質を向上させる。 定期テスト問題の共通化を進める。	授業時間を確保することで、生徒による授業評価が前年度に比べ向上したか。 各教科科目について、定期テストでの共通問題の占める割合が前年度に比べ増加したか。	授業評価の結果から、昨年度と比較して、生徒の学習に対する態度が前向きになった科目が8科目あることが読み取れる。 定期試験問題で、担当者ごとの個別問題が2割含まれるという科目が1科目あったが、その他の各教科科目では、定期テスト問題の共通化が図られ、昨年度に比べて共通問題の割合が増加した。	授業内容についての評価結果はほぼ横ばいの状況である。生徒が主体的に参加できる授業改善を推進していく。 各授業の進行調整を担当者間で綿密に行うことにより、定期テスト問題の100%共通化を図る。	福祉マインドの育成について、授業や部活動において取り組んでいることを、横浜南陵高校の特色としてもPRした方がよい。	授業評価の結果から学習に対する意識向上に一定の効果が認められた。 自宅学習の定着度をさらに向上させる必要がある。	・公開研究授業の内容を充実させ、本校の課題を全体で共有し、その改善策を検討する。 ・教員に個別質問がしやすいスペースを改善するとともに自習スペースを確保する。
2 生徒指導・ 支援	豊かな人間性と社会性を育み、一人ひとりに応じたきめ細かな支援をする。	規範意識を醸成し、授業を大切にすることを育成する。	新たに定めた指導方法に沿って、生徒を授業に取り組みせ、正しい身だしなみにさせる。	・全職員で統一して指導できたか。 ・授業の遅刻者が前年度に比べて減少したか。また、生徒の身だしなみが改善されたか。	・学年を中心に統一して取り組んでおり、遅刻も身だしなみも改善している。 ・遅刻指導の継続により、前年度より遅刻は減少した。	・次年度に向け、さらなる統一した指導をめざす。 ・一部遅刻が常習化している生徒への個別の指導を強化する。	高校生として、周りの状況を見て、何をしてどのように行動すべきかという視点を持てるようになってほしい。	統一した指導により遅刻や身だしなみが改善されてきた。	「福祉マインドの育成」を学校全体で共有し、校内・校外を問わず、規範意識を高め、行動できる力の育成を図る。
3 進路指導・ 支援	生徒が自らの意志と責任で、よりよい進路選択ができるよう、進路指導計画の充実を図る。	的確な目標設定と、進路実現に向けた取組を進める。	外部英語検定試験や業者テスト、各種ガイダンス、インターンシップ等を通して、自らの進路選択に積極的に活用することをめざす。	・進路指導計画に基づき効果的な指導ができたか。 ・外部試験や各種ガイダンス等を進路選択に活用させることができたか。	・生徒の進路実現のために情報の提供や面接指導などを効果的に実施できた。 ・外部試験を実施し、生徒の進路選択のための事前事後指導を行った。	・進路指導については学年主体で行っているため、学校全体で組織的に取り組む必要がある。 ・外部試験データの分析を行い、さらに有効な活用方法を模索する。		・インターンシップ、外部試験等を充実させることができた。 ・大学との連携をさらに進める必要がある。	・生徒が意欲的に外部試験等でのキャリアアップをめざすよう効果的な指導を展開する。 ・外部試験の振り返り及び教員研修を行い、学校全体で効果的なキャリア教育及び進路指導に取り組む。
4 地域等との 協働	地域との連携・協働を推進し、地域から愛される学校づくりを進める。	地域の防災訓練などへの生徒参加を活性化する。	地域と連携した防災教育、実践的な防災訓練のあり方を検討する。	地域と連携した防災訓練、災害時図上訓練などへの、生徒の参加数が前年度に比べて増加したか。	・防災委員や部活動の生徒計42名が地域の防災訓練に参加し、昨年の参加数を上回った。 ・防災委員による災害時図上訓練を実施した。	災害時図上訓練について、全生徒参加の実施を検討する。	砂災害指定地域の対象なので、その対応や課題を明らかにする必要がある。	防災委員の活動が定着し、地域の防災訓練にも防災委員中心ではあるが、積極的に参加し、成果をあげた。	全生徒が災害図上訓練に参加できるように、その内容を工夫する。
5 学校管理 学校運営	生徒が安心して通える、安全で信頼される学校づくりを進める。	清掃・整頓を徹底し、より良い学習環境を確保する。	校舎内外の清掃活動の徹底を図り、ゴミの分別を徹底する。	清掃活動・ゴミの分別を徹底し、より良い学習環境が確保できたか。	文化祭でゴミステーションを設置した結果、ゴミの分別に効果的であった。	身の回りのものを整理整頓し、ゴミを適切に処理するなど、さらに意識を高める指導をする必要がある。	ゴミの分別について、学校・地域・家庭での意識づけが重要である。	生徒自身が身の回りのものを整理整頓するという意識を持ち実行する指導を継続して行なう。	環境委員の活動をさらに活発化させ、ポイ捨て禁止等と呼びかける。